

月1回、家庭で食事づくりに取り組む

子どもたちの「生活の自立」を願って

PROFILE

森下 博 もりした ひろし（小浜市教育長）

昭和23年 福井県小浜市にて生まれる。

昭和45年 岐阜大学教育学部卒業後、福井県の小学校教員として教壇に立つ。その後県特別支援教育センター教育相談、嶺南教育事務所研修課長・次長を歴任し、平成12年に小浜市で校長就任。平成20年3月退職。平成20年10月小浜市教育長に就任、現在に至る。



① はじめに

今の子どもたちはゲームに没頭、人間関係が苦手。中学生は教師の指導に従わないなど、教育関係者を悩ませています。私はどうしたらよいのか考えてきました。現代社会の過剰な便利さは子どもたちの年齢に応じた「生活の自立」を妨げているように思っています。子どもたちの「生活の自立」を促すには、家庭でのお手伝いなどが有効だと考えています。

小浜市では、平成14年に『食のまちづくり条例』を制定し、全国の先陣を切って食のまちづくりに取り組んできました。学校現場でも食の教育や給食の改善に取り組んでいます。各学校での「食の教育」に加え、市の食文化館で子どもたち対象の料理体験—ジュニア・キッチン、キッズ・キッチン—が行われてきました。料理の実体験を通して小浜市すべての子どもたちに「命の大切さ」などを指導しています。私は、この取り組みの成果が子どもたちの人生の中に正しく位置づいてほしいと願っています。中学・高校を卒業し、都会で就職・進学した時、面倒がらずに自炊ができるようになるということです。

それは、私が考える食育の最終目標です。この目標を達成するためにも「月一回でいいから、家で食事づくりに取り組ませて」と先生方に呼びかけ、平成25年から市内の全学校で取り組んでもらっています。

② 食事づくりの教育的意義

食事づくりの過程を分析してみますと、作り手には多様な能力が求められることがわかります。

- ① まず、何を作るかを決めます。自分で考える、家族の意見を聞く、本などで調べる場合もあります。
- ② 材料をお店などで調達する必要があります。品物の値段や品質を考えなければなりません。購入の際にはお金の計算をする必要があります。また、お店の人と会話をしなければなりません。
- ③ 実際に調理をします。道具の使い方、仕事の手順、味や炊け具合を見なければなりません。集中力が必要です。
- ④ 盛り付け・配膳。お皿を選び、きれいに盛り付けるなどの過程で美的センスが求められます。
- ⑤ 作った食事をみんなで食べる過程で評価を受けることとなります。おいしいなどと褒められると、嬉しく自

信になります。

- ⑥ 最後は後片付けが必要になります。苦手な子どもも多いですが、最後まで行うことで我慢する心が育ちます。

以上のような過程は、国語・算数・美術などの授業で培った能力が試されます。さらに、社会性・自己有用感など多様な能力が育成されると思われます。同時にこのような経験の積み重ねは、自炊ができる・やろうとする「生活の自立」を育てることになります。

③ どう定着と発展を図るか



子どもたちの取り組みを継続させ、意欲的に立ち向かわせるためには、担任の先生方の指導が欠かせません。例えば、クラスで各自の食事づくりを披露させ、工夫している子の取り組みを褒めます。友達のいいところを学ぶ機会を作るのです。「今度は〇〇ちゃんを真似してやってみよう」と子どもたちが思うことで、さらに意欲的に取り組むようになると思います。取り組みが定着してきた段階で、子どもたちの料理の幅を広げ、質を高めるために教師から課題を与えます。「今回はフランス料理を作ってみよう」「焼き魚をメニューに入れてみよう」などです。その他にも、学校の畑で作った野菜を持ち帰り料理に使う、釣りの好きな子は自分で釣ってきた魚を使うなど、面白い展開が考えられます。

④ 取り組みの様子

あるお子さんの家庭を訪問しました。小学6年と4年

の女の子がお母さんと楽しそうに食事作りに取り組んでいました。「フライパンを使うのが好き。お父さん、お母さんからおいしいと言ってもらえるのがうれしい」と答えてくれました。

平成26年度には、市内全児童・生徒の88%が何らかの取り組みをしたと報告を受けています。各学校では取り組みを進展させるため、先生方が次のような工夫をしてくれました。

- ・給食委員会による「食事コンテスト」
 - ・第3土曜日を「お料理デー」
 - ・実施報告書をホームページにのせる
 - ・「食のお手伝い日記」を書かせ、発表など、
- その他にも、「離乳食を作って赤ちゃんにあげた」という微笑ましい報告もありました。一方で、いろんな事情で取り組めない家庭もあり、今後の課題となっています。



⑤ おわりに

私は、家庭での食事づくりが現代の日本の子どもたちにはとても大切だと思っています。このような取り組みを、ぜひ国全体で実行してほしいと願っています。